

ジェネリック医薬品って？ (後発医薬品)

近頃、よく耳にする「ジェネリック」。

「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」について、
初めて聞いた人から、なんとなく知っている人まで、
簡単な基礎知識を解説します。

基礎知識をつけたら、

担当の医師や薬剤師に相談してみましょう！

「私のお薬は

ジェネリック医薬品にできますか？」と。



ジェネリック医薬品 (後発医薬品)とは？

ジェネリック医薬品(後発医薬品)とは、
新薬(先発医薬品)と効き目や安全性に
違いがないことが厚生労働省から認め
られているお薬のことです。

「ジェネリック (Generic)」とは「一般的な」といった意味です。



低薬価で経済的です。

新薬の開発には多額の費用と時間がかかるため、独占製造・販売
ができるよう特許期間がもうけられています。

その特許期間が過ぎると、他の医薬品メーカーでも同じ有効成分
のお薬を製造することが可能になります。そのようなお薬をジェ
ネリック医薬品と言い、新薬よりも少ない費用で開発できるため、
低薬価で経済的なお薬として普及しています。

効き目、安全性は新薬と同等です。

ジェネリック医薬品は、厚生労働省が定める厳しい規制や基準を
クリアし、製造・販売されています。

新薬と同じ量の有効成分を含み、効き目や安全性はもちろんのこと、
その品質が新薬と同等であることを条件に承認されます。

副作用への対応も新薬と同じです。

ジェネリック医薬品は新薬と添加物の違いや、色や形が違うもの
もありますが、効き目や副作用に違いはありません。

ジェネリック医薬品を適正に使用したにもかかわらず、副作用に
より入院等が必要な健康被害が生じた場合は、新薬と同じく「医薬
品副作用被害救済制度」の対象となります。

欧米では広く使われています。

ジェネリック医薬品は、世界中で普及しています。

アメリカ、イギリス、ドイツなど
欧米諸国では医薬品の約半分以上を
ジェネリック医薬品が占めてい
ます。



医療費の抑制に貢献します。

日本の国民医療費は高齢社会にともない、国民所得を上回る勢い
で増加しています。このまま医療財政の厳しい状況が続くと「国民
皆保険制度」そのものを脅かしかねません。

このような状況の下、ジェネリック医薬品は国民医療費における
薬剤費を抑えることができるため、その積極的な使用が国により
推進されています。

